

週報

こひつじ

第41巻 9号
大津キリスト教会
菊池郡大津町室 119
TEL 096-293-4470
FAX 096-293-4961
牧師 米村 英二

パンの奇蹟

その二 今、手もとにあるもので始める

そこで群集を空腹のまま帰らせたくないと思われたイエスは、「どうしたらよいか」と弟子たちに意見を求められた。彼らをテストするためであつたといふ。

まずピリオが答えた。

「どこかで調達するには余りに大勢で費用がかかりすぎます」
ところがアンデレは、「人の少年が五つのパンと二匹の魚を持っています」と言つてその少年を連れて來た。

イエスはすぐさま五つのパンと二匹の魚を取り上げ、天を見あげて祈られた。そしてすわつていて

者たちにほしいだけ分けられると、を図るなら、結局、国を滅ぼすこ

彼らは十分食べたとある。こうしてイエスは五千人を養われたのである。

ここにわれわれの必要を満たすための第一の原理が示されている。

それは、外から調達するのではなく、今、手もとにあるもので始めます。

戦争前、狭い国土の日本は、増加する人口を養うには、領土拡大が必要と考え、アジア諸国を侵略して植民地にし、そこに日本人を移住させた。

湛山は、それに反対して言つた。

日本が他国を侵略し、領土拡大

と言つてその少年を連れて來た。

ところが小国主義を唱えた石橋

湛山は、それに反対して言つた。

日本がほかにいる日本人を用いて

本は、アジア諸国を友人に持つこ

となるだろう。だから満州はもちろん、朝鮮、台湾、樺太も捨てて日本が生きる道であつて、國防の上でも、国民を養う上でも、もつとも安全、かつ正しい道である。

しかし湛山の考えに耳を貸す人はいなかつた。日本はその後も拡大路線を走り、太平洋戦争に突入し、その結果、太洋戦争が終わると、歓喜に溢れ、「新しい日本の前途は、實に洋洋たるものがあります」と彼の発行する新聞の社説に書いた。

イエスが言われたように、大勢の奇蹟の原理の適用だつたと

言えないだろうか。

日本がかかえている日韓・日中の問題もなかつただろう。湛山の考えは、まさにイエスのパンの奇蹟の原理の適用だつたと

と

ができるだけではなく、その道德的決断のゆえに世界の国々の尊敬の覚悟を持つべきである。それがを受けていたんだろう。また、今、

日本がかかえている日韓・日中の問題もなかつただろう。

少年の持っていたものもわざかだつた。が、それが五千人を養つたのである。

二宮金次郎が発見したのもそのことだった。

彼は三人兄弟の長男だつたが、少年の頃、両親が死に、家も人手に渡り、伯父の家に預けられてい言つた。

彼は勉強したくて、一日の労働のあと、こつそり隠れて本を読むのだが、それを見た伯父が怒つて言つた。

「百姓が本を読んで何になるか。それに油がもつたいない」

金次郎は思う。それなら油を自分で手に入れよう。そこで川の堤防の空き地に友人から借りた菜種五勺（〇、五合）を蒔いてみる。驚いたことに、翌年、その百倍を超える七升以上の収穫を彼は得たのである。

彼は、そのとき、まじめな労働に対して自然の恵みがいかに大きいかを知つたという。

氣をよくした金次郎は、今度は、捨ててあつた苗を、洪水で沼地となつた土地を自ら開墾して植えて

みた。翌年それは一俵の米となつたのである。

先週の礼拝

みに待ちたいと思います。

墓地補修について

○司会は岩崎宏志さん。説教は、

一ヨハネの手紙三章一節から、神の子どもであることの意味について語りました。

○礼拝参加者は、第一礼拝が四名

一名、第二が四三名、合計八四名

（男二六、女五八）。それに子ども

が五名、合わせて八九名でした。

記のような内容です。

一、納骨堂全体クリーニング（室

内清掃を含む）

三月二日の第二礼拝に、アメリ

カのサクラメントから荒井孝太郎

二、全体目地補修、屋根部上塗

夫婦がこられ、主が、サクラメン

トで、どんな不思議な働きをして

くださったかを語つてください、

一同、励ました。渡米後は、

苦労の連続だつたが、そんな中で、

レストランを始め、今では、従業

員が千人を超えるようになり、ま

た多くの奉仕活動をしているとの

ことでした。

今日の礼拝

○第一礼拝は午前一〇時から、

第二礼拝は午前一一時から。

○教会学校は午前一〇時から。

○説教は米村牧師。

次回に、来られるときは、荒井孝太郎さんによる特別講演会を開くことになるかと思います。楽し

く熊本地震後、かなり傷んでいる部分がありましたので、以上の価格で補修することになりました。